

看護大通信

73



て、月に一度ご自分で視触診されている方もいるでしょう。とても大切なことです。自己検診だけでなく、是非専門家にもみてもらいましょう。

しかし、残念なことに乳がん検診受診率（40歳以上・マンモグラフィおよび視触診）をみると、20.3%（国民生活基礎調査二〇〇七年）という数字が出ています。この数字

新潟県立看護大学
基礎看護学領域 助手
内藤 みほ
毎年10月になると東京タワーがピンク色に変わるニュースを見たことがありませんか？ ピンクリボンをマークとした乳がん撲滅キャンペーンの一環です。

乳がん検診、受けてみませんか？

臓器別で見ると、女性のがんの第一位が乳がんであり、その数年々増加していると言われています。自らの乳がんを公表したタレントさんも多く、数年前には乳がん患者さんが書いた自伝が映画化され話題となり、乳がんに対する私たちの意識は少しずつ変化してき

診、上越市では40歳以上の女性が乳がん検診の対象となっていました。また、若いから大丈夫という保証もありません。20代のうちから乳がん検診、婦人科検診（上越市の子宮頸がん検診は20歳以上が対象）を受けましょう。

を見て皆さまはどう思いますか？ ちなみに欧米の乳がん検診受診率は70〜80%と言われ、関心の高さが表れています。多くの先進国ではマンモグラフィ検診が推奨され、乳がん発生率は増加してきています。

「自己検診」といっ

乳房は女性のシンボルと言われます。がん治療のために、乳房を失う女性は大変傷ついていま

す。「大好きな温泉に行けない」「女性として見えてもらえなくなるのでは」と涙を流している患者さんを、私もたくさん見てきました。若い人であっても年配の方であっても思いは同じなのです。周りの人たちにこんな思いはしてもらいたくないと、勇気を出して体験談をお話ししてください。自分自身に置き換えてもらえば、乳がんに対する意識はさらに変わっていくと思います。

「早期発見・早期治療」ご自分やご家族の大切な身体を守るためです。乳がん撲滅月間を機会に是非、乳がんに対する知識を深め、母娘、姉妹、友人同士で検診を受けてみませんか。